

# 議会運営委員会・議会活動活性化委員会 合同視察報告書

令和7年11月10日（月）～11月11日（火）

山ノ内町・佐久市・小諸市

議会運営委員会

議会活動活性化委員会 岡田建二郎

## 1 山ノ内町議会

「予算決算審査委員会の運用について。広報委員会の常任委員会化について」

### 概要

- ・平成29年3月までは特別委員会として予算決算を審査していたが、毎回動議による特別委員会の設置ではなく、常設化すべきとの議長の諮問により、同年6月より常任委員会化した。
- ・1議案を予算決算常任委員会に付託するものの、付託後は2部会で審査する形態を取っている。
- ・部会は総務系と福祉系の常任委員会によって構成されており、形式的に分割付託を避けている。
- ・2部会で審査後、全議員による予算決算常任委員会を設け、それぞれの部会での審査状況を部会長が報告・共有し、報告した案件のみを議員間討論の形で確認し合い、討論採決を行っている。
- ・それぞれの部会毎に政策提言に準じた「部会意見」を付している。
- ・当初予算、決算審査時の定例会では、5日間の委員会審査日程を確保している。

### 所感

- 分割付託はされていないものの、基本的には総務・福祉両常任委員会での予算決算審査となっている。
- 最終日の本会議前に全体で討論・採決を行うので、最終日の議会進行はスムーズに行われる。
- 毎議会で部会意見をまとめることで委員会としての統一見解が示されることは参考になった。
- 最終日の本会議が形骸化することも認識しており、討論に参加する議員は委員会では概要討論・本会議で本格討論するなど工夫をしているとのこと。
- ※結局、なぜ分割付託を避ける形をとったのか、歴史的な背景は不明なままだった。議会によって多様な議会運営の形があることを痛感した。

## 2 佐久市議会

「議員報酬の引き上げについて。議会BCPの策定について」

### 概要

- ・報酬引き上げの議論が始まったきっかけは市議選の無投票であり、要因の一つである「なり手不足解消」。
- ・議員報酬を考える視点は、①議員の活動量からの算出 ②類似自治体議会との比較 ③公務員との比較であり、①～②はどちらも実態よりも低く、③は現状の課長級よりも部長級に相当すべき、との総括。
- ・議員定数は26名が適当との市民の声もあった（市民との懇談会）が、報酬審議会からの付帯意見に「定数削減を検討すべき」とあり、検討した結果、賛成多数で定数2減の24名へ。

### 所感

- 定数の検討は市民アンケートの結果「削減」としたものの、報酬の引き上げは議会主導で「市民との懇談会」を基に「増額」と結論づけた経過は興味深かった。
- 報酬を考える視点①議員の活動量について、公務の他、政治活動も含めているため、議員の活動量をより正確に把握されていると感じた。

○報酬審議会が「議会の定数減を検討すべき」と意見することの妥当性を見いだせなかった。

※アンケートでは議会の力を低下させる定数減となり、懇談会では議会の力を向上させる報酬増となったことを見ても、経過を説明いただいた議員さんからの「市民と率直に議論しないと議会の役割も活動も理解してもらえない」という言葉に尽きると思う。なにより、市民の多くが議会の定数を知らなかったというアンケート結果は衝撃だった。

### 3 小諸市議会

#### 「議員報酬の引き上げについて」

##### 概要

- ・2年毎に議会基本条例の検証・見直しを実施している。
- ・議員定数と議員報酬の見直しについて、毎回検討委員会を構成して協議し、報告書を議長に提出している。
- ・上記検討会は各会派から最低1名ずつ参加し、会派の大小に応じて調整する。（定数部会4名 報酬部会4名）
- ・議員報酬の見直しを検討するにあたり、活動量調査を実施している。
- ・上記活動量調査は、18回目までは政治活動も活動時間に含んでいたが、直近の19回目は含めていない。
- ・外部講師による見解として『議会の報酬と定数は別の論理である』と示されているが、併せて議論した。
- ・検討にあたって、市民アンケート、意見交換会、パブリックコメントを実施している。

##### 所感

○2年毎に議会基本条例を検証することが定着しており、毎回活動量調査を実施していることに驚いた。なぜ直近の19回目の調査だけ政治活動を含めなかったのかは判然としなかった。

○報酬審議会からの付帯意見①活動の見える化②報酬増によるなり手不足対策以外の手立て③議会全体としてまちづくりへの参加④情報発信への取り組み強化 は当議会でも大変参考になる意見だと感じた。

○市民の意向を把握するための3要素を実施しているが、報酬と定数を同時に議論すると報酬増は理解されるが定数減に傾いてしまうので、理解醸成のための十分な議論が不可欠だと感じた。

※2年おきに条例の検証や見直しを実施するなど、絶えず議会内での考察が進んでいることの重要性を確認するとともに、改めて報酬と定数は別次元で議論する必要性を再認識した。また、定数や報酬について検討する際には、『議会の活動は市民に見えていない』という前提で、丁寧な住民への説明や意見聴取が求められることも痛感した。

##### 全体を通じて

当議会の報酬が県内では高いものの全国的には低いことや、物価高騰や賃金上昇率など客観的な観点から考察すれば報酬増と結論されるが、住民への説明という視点では不十分だと感じた。一方で、定数削減は議会力の低下であり、結果的に住民にとって不利益となることから、定数と報酬を分けて議論してきた当議会の方向性は間違っていなかったと確信した視察だった。住民に対して議会の意義や議員活動の理解醸成が目下の課題だと感じた。